

自己評価票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員が認識を持っている。地域のなかで、その人らしく安心して暮らし続けることが出来、住民の一員としての役割を果たしながら、生活の継続が出来るような理念を作っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、地域密着型サービスの理念を共有し、理念の実践に取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会を利用し理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。また入居希望者や見学者等にも説明し地域との繋がり大切さを理解して頂けるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣組の方とは殆ど毎日顔を合わせる機会があり、こちらから積極的な挨拶や身近な話を交している。花や野菜を頂いたり畑の土手の草刈りをして頂いている。グループホームで作ったおはぎや草餅等を届けている。犬を飼っているため、近所の方が散歩途中に立ち寄ってくれる。グループホームの催物に招待したり、運営推進会議にも出席して頂いている。		

グループホームつりがね草

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や公民館活動に入居者、職員と一緒に積極的に参加している。保育園との交流会は定期的に月1~2回あり、5年間継続している。また、地域の防災訓練や一斉清掃には管理者や職員が参加し地域との交流を深めるよう取り組んでいる。	○	「子供を守る安心の家」の看板を設置。小学校からの要望もあり、何らかの形で交流を図りたいと考えている。
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	小学校の通学路にあり、小学生が毎日気軽に立ち寄ってくれるので「子供を守る安心の家」の指定を受けた。また昼間一人である高齢者の方に時々声掛けをし、話相手になることもある。管理者は地元地域で「認知症について」の講演を行なったこともあり、今年他地域であるが5月と7月に「認知症の正しい理解」について講演を行なった。	○	隣組や常会単位で「認知症」の学習会を開催できたらよいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の重要性を職員全員が理解しており、全員で自己評価を行なっている。サービス評価を活かしてサービスの確実な質の確保と向上を念頭に毎日のケアに取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、その都度テーマを検討して頂き、テーマに添って、介護派遣相談員、消防署員、隣組代表等、随時の出席を頂いている。入居者の生活場面やサービスの実際等をパンフレットに記載し誰が見てもグループホームの生活がわかりやすくしている。会議の内容は職員に報告し、サービスの向上に活かしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センター職員には運営推進会議に出席頂いている。また、グループホームへの立寄りも依頼している。市担当課へは、時々連絡や助言を頂いている。市から派遣されている介護相談員を月2回受け入れ、意見をサービスの向上に役立てている。	○	もう少し積極的な取り組みを検討したいと思っている。

グループホームつりがね草

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修を通じて、成年後見人制度や地域福祉権利擁護等について学んでいる。また、勉強会でも取り上げ理解を深めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止の研修を昨年受講した。勉強会で職員全員に周知徹底している。事業所において、虐待の危険はありえないことと全員が理解している。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には、事前に説明書を送付し内容確認に時間を取っている。契約時には必要書類に基づき、十分な説明と疑問点や不安などに答えながら理解と納得を得ている。契約の改正時は、ご家族に説明、同意書を頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営者、管理者、職員は入居者の意見や要望、不満、苦情、を傾聴して、運営に反映するようにしている。月2回の介護相談員、第三者委員会メンバーの3名による面談もあり、いつでも苦情を言えるシステムを作っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料請求時に、1ヶ月間の生活の様子や次月の行事予定等を報告している。毎月、預り金出納簿も同封。年4回発行の新聞を送付。家族の面会時にも近況報告や要望をお聞きしている。必要時は電話での連絡も行なっている。全職員の紹介や異動職員、退職職員等は新聞で報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は家族の意見や不満、苦情等を言いやすい雰囲気留意し、面会時には近況報告や要望等を聴く努力をしている。玄関に苦情受けが気軽にできるよう記載、掲示してある。意見や要望があった場合は申送りやミーティングで報告、サービスに反映している。また、家族会では職員が席をはずし第三者委員との面談を実施している。		

グループホームつりがね草

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は随時管理者が聞いている。また、ミーティングでは、職員一人一人が意見を言う機会を設けている。言いづらい事柄は意見箱を常設してある。連絡帳を利用することもある。管理者はミーティングや申し送り等で報告、早期の解決や実施を行なっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の生活のポイントに合わせ、早番、日勤、遅番、夜勤の4シフト制。行事等は職員の人数調整を行い対応している。職員の希望も取り入れ勤務表を作成し無理のない勤務体勢を取っている。管理者も通常シフト勤務であるが、早朝や夜間、必要時は対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の馴染みの関係作りに重点を置いて、異動は最小限度にと本部へ依頼している。また、異動時には入居者に紹介、理解を得ている。開所時から勤務している職員もおり顔馴染みの職員による支援が行なわれている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や段階により、各研修に随時参加している。グループホームでの勉強会で研修報告を行い他職員の知識に役立てている。今年度は2名の職員が資格取得を目指している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に時々参加している。必要時は電話等で情報交換している。相互評価や交流や連携をとる迄には至っていない。	○	同業者との交流を持ち、お互いの情報交換のなか、サービスの質の向上を目指していきたい。

グループホームつりがね草

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	入居者から離れて休憩時間を確保するように努力している。運営者や管理者は随時、職員の悩みや不満の相談に乗り、ストレスの軽減や環境の整備等に取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員同志、お互いの価値観の違いを認めながら連携を図り職場環境を整えている。運営者や管理者は職員の勤務状況を把握し、努力や成果を認めている。資格取得を応援し資格手当支給に反映される。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接時や見学時に、ご本人の心情を受けとめるようにしている。入所決定前に体験入居の機会を設け、ご本人の不安や困っていることの把握に務めながら支援を行なっている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接時や、事業所見学時にご家族の心情を受け止めながら対応をしている。入居決定前に体験入居の機会を設け、ご本人の困っていることや不安を把握しご家族に報告している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談や電話での対応で、事業所では対応出来ない場合等は、ご本人やご家族の状況に応じ、他のサービスや相談窓口を紹介している。		

グループホームつりがね草

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>26</p> <p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>施設見学や体験入居の機会を設け、他の入居者や職員との共有の時間を過ごして頂き、十分検討できるようにしている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
<p>27</p> <p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「同じ屋根の下で共に暮らす」仲間として、職員は入居者の喜怒哀楽を受け入れ、ご本人の言動から心情を察し、受けとめるようにしている。生活上の知恵を教えて頂いたり、入居者と職員で協力しながらの生活を送るよう支援している。</p>		
<p>28</p> <p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族との信頼関係を大切にしている。ご家族の要望をサービス計画に取り入れ実現を目指している。通院時の協力を得たり、行事への参加や誕生日を一緒にお祝いして頂く機会を設けている。また、ご家族がグループホームのために野菜作りをしていく。毎年、収穫に入居者の方達と伺っている。</p>		
<p>29</p> <p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>面会はいつでも自由にでき、時間の制限もなく、外出も外泊も自由に対応している。ご本人の状況を報告する機会を多くし、課題については、ご家族と相談しながら支援している。</p>		
<p>30</p> <p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居者のなかには、地域の方との馴染みができ良い関係を継続している。近所の商店や散歩場所は馴染みの人や場所となっている。外部からの来訪者もオープンにしている。手紙や電話利用の支援等で継続的な関係維持を行なっている。</p>		

グループホームつりがね草

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、入居者間の関係を理解し把握し入居者同志がお互いの関係を大事しながら生活が送れるよう支援や調整役を行っている。畑仕事や外出行事、毎日の生活のなかでお互いが協力したり、和やかな雰囲気の中で過ごせるよう努力している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居したご家族に、その後の様子をお聞きしたり、電話を頂いたり相談に乗ったり関係の継続を大切にしている。また、退居したご本人がグループホームを訪問してくれたり、催物に招待したり、こちらからも訪問したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者全員が、その人らしく生活出来る視点を職員が持っている。一人一人の思いや意向に関心を払い、入居者本位に対応できるよう努力をしている。また、ご本人の言動や表情から推察し対応している。ご本人の思いをサービス計画に反映し、実現できるように支援をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力と理解を頂き、センター方式でご本人のバックグラウンドを把握、ご本人の生活歴やライフスタイルの情報を得ている。毎日の生活や言動からその人の価値観や個性を捉え、尊重した対応を心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者個人個人の生活パターンを尊重した対応を心がけている。ご本人の出来ること、残されている機能に注目し、日常生活のなかで活かす支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成は、センター方式を使用。職員全員が介護計画に関わっている。ご本人やご家族の要望も取り入れた計画を作成。その都度ご家族やご本人の承認を得ている。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>原則的には、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行なっている。介護計画は、ご本人の生活がよりよくなり、少しでも長い身体機能維持を目指している。介護計画実施状況をチェックし全員でのカンファレンスに活かしている。変化のある場合はご家族に連絡し、状況に即したサービス計画を作成している。</p>	<p>○</p> <p>チェック表の十分な活用と、モニタリングを活用し現状をきめ細かに把握できることを考えている。</p>
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日誌には、個人個人の1日の生活状況が把握できるような記録をしている。介護記録は、日中、夜間の状態を個別に記録。出勤職員は必ず目を通し、個々の状態を把握し、情報の共有と実践に活かしている。</p>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>認知症の進行や重度化にあわせた支援をご家族と相談しながら行なっている。緊急時やご家族の対応困難な時は、柔軟な支援をするように努めている。</p>	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>入居者の皆さんが安心して生活ができるように、町会長、民生委員、消防署、警察等の協力を得ている。地域の行事には積極的に参加。保育園との交流も継続的に実施。ボランティアを受け入れている。</p>	<p>○</p> <p>地域の小学校との交流会を検討している。また、ボランティアセンターと連携を深めていきたいと考えている。</p>

グループホームつりがね草

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域公民館で行なわれる健康教室に参加。地域の美容院を利用、また、月1~2回の出張理容を受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議において地域包括支援センターの機能、活動状況や地域密着型サービスについて説明を頂いた。支援に関する助言や情報交換は行っているが協働までには至っていない。	○	今後、各制度についての勉強会の依頼等を含めて地域包括支援センターと地域の情報交換、協力関係を築いて協働して連携を図っていきたいと考えている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望により主治医を決めている。通院はご家族対応者と、近隣の内科医の往診を月2回受けている入居者がいる。他科の受診も主治医の指示で受診している。主治医との連絡や連携を取り適切な診療を受けられている。緊急時の対応や入院時の送迎も支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院に精神科医がおり、適切な指示や助言を求めることができ、認知症の診断や治療を受けられる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接しているデイサービスの看護師に気楽に相談ができる。緊急を要する時は管理者が運営者と相談し適切な処置がとれるようにしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	昨年骨折された入居者に対して、職員全員が定期的に面会し精神的な支えとなるよう支援。本人の頑張りのご家族の協力と医療機関との連携で早期退院を実現した。		

グループホームつりがね草

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化やターミナルについては、ご家族の思いを尊重し・医療機関の連携やご家族の協力を得ながら、事業所のできる最大の支援を具体化していきたいと考えている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>職員のターミナルに関する支援に当たっては主治医や本部、職員の理解と意欲を確認しながら具体化していきたいと考えている。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>集団生活のなかでのプライバシー保護を常日頃意識していきたい。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>「出来ること」の見直しを定期的実施していきたい。</p>

グループホームつりがね草

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>集団生活のなかでの、基本的な1日の流れはあるが、入居者主体の時間を過ごす配慮をしている。職員が持ちやすい「こうあるべき」の観念を取り外し入居者に合わせた柔軟な対応を心がけている。</p>	○	職員体勢や、入居者の理解度の程度により説得してしまうこともあるができる限り減らしていけるよう務めたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>毎日の整容や身だしなみのため、鏡やブラシを自室に用意している。日常着は基本にご本人が選択している。美容院を利用する方、理容を利用する方のなかには、おしゃれな毛染を楽しむ人もいる。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>食材の買物同行や、調理、盛り付け、配膳、後片付け等の一連の作業を職員と一緒にしない、入居者と職員は一緒に食事を摂っている。献立は入居者の希望献立であったり、一緒に収穫した野菜を調理したり、外食を楽しむこともある。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>飲み物は、お茶やコーヒー等を用意し好きなものを選択出来る。一人一人の嗜好を把握している。現在、飲酒や喫煙者はいないが、夕食時や誕生会等にはアルコールを飲む機会を提供している。また、独自のドリンクや畑のトマトを利用したトマトジュースを楽しんでいる。</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p> <p>現在はオムツ使用者ゼロである。。夜間のリハパン使用者も、日中はパンツにはき替えて、トイレでの排泄を支援している。リハパン使用者は起床時、陰部、臀部の清拭をご本人あるいは職員が介助して清潔保持に努めている。</p>		

グループホームつりがね草

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>現在は、午後入浴を行っているが、入居者からの要望があれば、勤務体制の工夫で就寝前の入浴を考えた</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		

グループホームつりがね草

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春と秋のお彼岸には、入居者の出身地方面へバスハイクに出掛ける。お墓参りはご家族対応。遠くの公園や空港、お寺等に出掛けるときは弁当を持参する。今年は青空の下、初めての桃狩りを体験して頂いた。	○	ご家族と一緒に出かける機会を設定していきたいと考えている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出を受け、手紙の投函や電話の取り次ぎを支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関は常に開放しており、近所の人や子供達、馴染みの方の訪問を歓迎している。訪問者の方が帰る際には、必ずまたお出かけくださるよう、声をお掛けしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束の弊害を理解している。身体拘束ゼロを徹底している。開所以来一度も行われたことはない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間帯のみ。既存の建物を使用しているため、最初から居室には鍵がある。入居者が就寝時に施錠することはあるが、職員が施錠することは一度もなく、入居者はいつでも、どんな時間でも自由に出入りが出来る。		

グループホームつりがね草

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は、入居者が過ごされる談話室に、職員が常駐するようにしている。掃除、洗濯干し、食事作り、後片づけ等、日常生活を共にしながら、入居者の所在や安全を確認している。夜間は安否確認の他は、プライバシーに配慮しながら随時、訪室している。安全確保が必要な入居者の居室の出入りにセンサーを設置している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや爪切りを自分で保管している入居者もいる。包丁や洗剤等は台所や廊下の物入れに保管。鍵をかけることはない。服薬は事務所内に保管・管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態に応じて、危険な行動を把握し、サービス計画の中に取りあげている。食事は入居者、職員と一緒に摂りながら誤飲や服薬をさりげなく見守りしている。歩行不安定で、転倒の危険が予測される入居者には廊下や階段での見守りを行っている。	○	入居者の重度化に伴い、一人ひとりのリスクを明確化していく必要があると考えている。また、ヒヤリハットの報告を活用をし事故防止に活かしていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法の講習は職員全員が受講している。緊急時マニュアルも整備され、随時勉強会も行っている。	○	定期的な訓練を行い、実際に役立つ行動を身につけていきたいと考えている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、避難訓練・消火訓練を行っている。通報訓練や夜間呼び出し訓練も随時実施。地域の協力体制については、運営推進会議で取り上げて、体制作りを検討中である。	○	隣組や常会での協力体制を検討中。早い段階で地域の方々と合同避難訓練を実施したいと考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとり役割活動や外出等によりリスクは高くなるが、活動的な自由な生活を支援している。リスクについては、家族会や面会時、ケアプランの中で取り上げて説明を行っている。入居後の行動障害の減少や豊かな表情の表出などの変化で、ご家族が安心されている。リスクについてはご家族の協力が得られている。		

グループホームつりがね草


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の体調を一人ひとり把握しており、毎日顔色や食欲、排泄、行動の変化等をチェックし注意している。必要時は、バイタルチェックを行い、主治医に報告し、指示を仰いでいる。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や目的、副作用、注意事項のファイルは個人毎に整理されている。勉強会にも取り上げ、服薬内容や作用のリストを職員に配布している。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事は繊維質の多い野菜を中心に、タンパク質、乳製品等を毎日取り入れ、食事やおやつで工夫して摂取している。毎日の散歩や体操で体を動かし、自力での排便を促している。それでも、便通のない方は主治医から処方を受けている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を職員が理解している。毎食後のうがいや義歯洗浄を支援している。就寝時は各自保管し、週2回の薬液による洗浄を実施している。残歯は職員が歯みがきを介助し口腔内の清潔を保つようにしている。	○ 定期的な歯科受診や訪問歯科診療が受けられるか検討していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えて食事を提供している。水分摂取には十分な注意を払い、水分補給をいろいろな形で提供している。夜間も各部屋にお茶を用意いつでも飲んで頂けるようにしている。栄養士のアドバイスも必要時受けている。	

グループホームつりがね草

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成している。日常的に手洗い、うがいの励行を行っている。うがいは洗面所に番茶を用意し、うがいと消毒を兼ねている。タオルは洗面所に各自設置し、毎日取り替えている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の清潔、調理器具やまな板の漂白、フキンの漂白等は遅番が毎日実施している。食材の買い物は毎日行っているため、新鮮で安全な食材を使っている。冷蔵庫等は定期的に整理し、清潔を保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は階段とスロープが設置されている。玄関前は季節の花を植えて、明るく親しみやすい雰囲気作りに配慮している。玄関にソファを置き、いつでも誰でもくつろげるようにしている。玄関は開放しており、子供達が気軽に立ち寄ってくれている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先は、プランターに花を植え、玄関や談話室には季節の花を飾り、安らぎと居心地のよい空間になるようにしている。廊下には入居者の貼り絵の作品や写真を貼り、親しみのある空間作りに努めている。整理整頓に心がけ、生活感も出すよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室には2カ所にテーブルが置いてある。廊下の隅や階段にソファや椅子。玄関にはソファが置いてあり入居者同士や一人で過ごすことが出来る。冬は談話室に畳を敷き、こたつを設置している。		

グループホームつりがね草

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	各個人の分かる力の見極めを定期的に行い、その都度最善の対応方法を検討していきたい。
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	建物の周りやベランダを利用して、もう少し花を育てたり、戸外にベンチを置いたり、外回りの空間を活かしていきたいと考えている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○をつけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホームつりがね草

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○をつけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

つりがね草は、静かな住宅の中に位置し、隣には保育園があります。開所当時から月1～2回の交流会も今年で5年目をむかえました。また、昨年から犬を飼いはじめたところ入居者の皆さんの明るい笑い声と優しい笑顔があふれるようになりました。また、小学校の通学路が横にあるため、毎日大勢の小学生が気軽に立ち寄ってくれます。ご近所の散歩途中の方も、気軽に声をかけてくれます。今年、「子供を守る安心の家」の看板を設置しました。地域の小学生の安心と安全を見守りながら、地域の一住民としての役割も果たして、さらに地域と密着した事業所を目指したいと思っています。